

令和4年度 第3回堺市立図書館協議会	
令和5年3月14日(火) 14時~15時 堺市立西図書館 2階 ラーニングスペース	
委員	中川幾郎会長、森美由紀副会長、北庄司愛浩委員、小松清生委員、 是住久美子委員(リモート参加)、飛石隆男委員、山尾真弓委員、 吉田富美委員(リモート参加)、吉原極委員
事務局	浦部中央図書館長、赤嶺中央図書館参事(企画・調整担当)、 有澤中央図書館総務課長、湯川中央図書館総務課長補佐、眞鍋中図書館長、 杉本東図書館長、眞鍋西図書館長、白川南図書館長、三藤北図書館長、田 中美原図書館長、白川主幹兼図書館サービス係長、輔信企画情報係長、 稲野企画情報係員、田代企画情報係員
傍聴	5人
案件	1.令和4年度堺市立図書館サービス評価(案)について
その他	①令和5年度予算について(報告) ②令和4年度堺市議会における質疑応答について(報告) ③令和4年度利用者アンケートについて(報告)

署名委員の決定
森委員 山尾委員

案件1について	
発言者	内容
事務局	案件1について説明
会長	順番にご意見を伺いたい。
委員	<p>中区で開催した保護者向け講座について、夏休みに図書館においてという子どもへの呼びかけだけではなく、図書館を利用してほしいということで、内容に関連した市民団体と連携をしてはどうか。</p> <p>協議会について、コロナの影響があるとはいえ1時間ではなく、もう少し時間をとって、サービス評価だけでなく、広く図書館について意見反映の機会があれば良かった。</p>

	<p>図書館カウンター堺東について、周知も大事だが、予約資料の受取と返却だけではなく、調べ物ができるなど、図書館の機能を充実させる事業にしてほしい。</p>
会長	<p>協議会の時間については、5月からは制約がなくなる。</p>
委員	<p>Twitter や Instagram について、若者世代への PR のために Twitter や Instagram 担当者はその人自身が楽しんで発信してほしい。ちょっとしたお遊び感のある方が一気にフォロワーが増える。フォロワーを増やし、一定数 1000 人以上で頑張してほしい。</p>
委員	<p>広報さかい 11 月号の図書館特集に対して、例年より反響があったようで良かった。図書館アンケートは来館した人が対象なので、図書館を利用しない人にも広く図書館についてアンケートをとってほしい。</p>
委員	<p>情報発信について、イベントがある場合は、例えば J:COM に取材してもらってはどうか。</p> <p>図書館カウンター堺東については、検証をもっと具体的にしたい。</p> <p>図書館を利用しない人への発信、広報さかいに載るといことも情報発信する必要がある。</p>
委員	<p>今回、定量的指標で令和 3 年から令和 4 年の前年度比を数値であげていただいているが、コロナ禍で日常生活を取り戻しつつあるという状況では数値が上がるのは当然のこと。レファレンスの数値は若干低い区が散見されるのが課題である。</p> <p>定量的指標で令和 3 年度と 4 年度を比較すると伸びるというのは当然だと思うが、令和元年度等の数値がないと元に戻ったのか、利用者の図書館利用の仕方が変化したのかどうなのかが見えないので、令和元年度の数値も含めて載せてもらいたい。</p> <p>昨年 7 月に「ユネスコ公共図書館宣言 2022」が出たが、その中で社会的包摂の強化が強く打ち出されている。誰ひとり取り残さない社会に向けて、図書館がどういうサービスができるのか、これからの図書館がどういう役割をもつことができるということをもう少し盛り込んでいただきたい。</p>

	<p>最近、大学で話題になっているのが ChatGPT という AI のこと。今まで図書・雑誌・新聞を読んで咀嚼するという行為から、AI が出した回答に対して本当に正しいのかというチェック機能、編集するという読書体験へと新たに変わってくると思う。そのあたりを図書館がどう向き合っていくのか。今の社会についていけるよう、これからのサービスや、どこかの企業との連携等も考えていってほしい。</p>
委員	<p>図書館の存在を知らない人はいないのに、利用しない人がいるのはなぜか、利用しない人に利用してもらうにはどうしたらいいかということを考えている。</p> <p>北図書館の取組に「ペーパーレスの取り組みが一層必要となる」とあるが、本（ペーパー）とペーパーレスとの両立を今後どうしていくのか。</p>
委員	<p>堺市の各図書館が進化していると感じる。昨年の協議会の評価に答えてくれている。</p> <p>図書館の建て替えやこれからの図書館についてみなさん興味を持っている時期だと思うので、「地域に図書館があることの価値」をもっと出していくような評価にしていきたい。</p> <p>海外の図書館は Well-Being や人々の幸福や健康に図書館がどれだけ貢献できるのかというところにシフトしており、自治体のデジタル田園都市構想の評価軸にも Well-Being が出てきている。中央図書館も建て替えの時にどのように存在価値を出していくかということ、各分館もその地区に図書館があることの意味や価値をどんどん PR できるように、人々にどのように行動変容を起こさせたか、団体をエンパワメントできるようになったか等、そういった観点でもっと PR してはどうか。</p>
会長	<p>アンケートの取り方について、来館者アンケートだけでは不十分ではないかという意見があった。認識度調査や、親しみ度調査みたいなものがあるのではないかということだが、図書館としてはどうか。</p> <p>AI の時代における図書館の立ち位置について、対処を考える時期に入っていると思うが、いかがか。AI をうまく使いこなす教育、それと合わせて、情報を選択する図書館が、どのようにそれをリードできるのか、ブレーキをかける必要があるのかなどについて、図書館として見解があればお聞きしたい。</p>

事務局	<p>アンケートの件については後ほどまたご説明するが、今年度は来館者アンケートの枠を広げ、図書館ホームページでも実施をした。これを入りにできればと考えている。</p> <p>それとは別に、2022年3月に新しい図書館サービス実施に向けた非利用者への意識調査を実施。中央図書館の基本構想、基礎調査の補足という形ではあるが、あまり図書館を利用していないノンユーザー、ライトユーザーを対象とした、インターネット上での調査である。</p> <p>この調査を元に、教育委員会では図書館の利用促進を目的としたワーキンググループを設け、取組に繋げている。ひとつは、非来館による利用者登録を実施したこと、もうひとつは、コンビニエンスストアと連携した資料返却を試行実施する予定である。</p> <p>AIについては、図書館にどのように新しい技術を取り入れ、具体的な取組に落とし込むか。どのように図書館というものを再構築していくかということは、かなり大きな問題ではある。度々ご指摘も受けているが、対外的に図書館をどう見せていくのかということも含め、戦略を持って取り組んでいける体制を構築していきたい。</p>
委員	<p>AIが非常に進化しており、ChatGPTを使うと本当に便利である。しかしそれを鵜呑みにしないという辺りに、図書館が貢献できることがあるのではないかと。</p> <p>今まで、図書を読みなさい、雑誌を読みなさい、新聞を読みなさいだったが、AIが全部文章構成をまとめてくれる時代になった時に、図書館はどのような情報を提供していくのか。どう図書館を活用したらいいのか、新たに考える局面にきているのではないかと。</p>
会長	他に意見はあるか。
委員	<p>提案であるが、堺市PTA協議会のネットワークを使って、アンケートを実施してはどうか。</p> <p>また、堺市PTA協議会では子どもたちから集めた作品を会場を借りて展示しているが、今年度からメタバース舞台を使ってバーチャルリアリティーの世界で美術館を用意した。美術展もそこでいき、賛否両論いただいている。</p>

事務局	アンケートはぜひご協力いただきたい案件である。しかしながら、担当部署との関係もあるため、まずは教育委員会としてどう進めていくかを調整したい。話が整った際には、ぜひともご協力をお願いしたい。
委員	ぜひ前向きに検討していただきたい。
委員	<p>子どもの意見を反映できるようなアンケートにしてもらいたい。親の意見だけではなく、学校図書館についても、子どもは現状をどう見ているのかというようなことを反映するものにしていただきたい。</p> <p>また、サービス評価の中で「配架」という言葉がある。「排架」の誤りではないかと思ったが、図書館用語とのこと。市民に分かりやすいよう、注で説明を書くか、表現を変えるかしていただきたい。</p>
委員	<p>学校図書館の方も、随分良くなってきている。ただし、子どもたちはどうしてもスマホやゲーム類に時間をとられている。子どもたちは今とても忙しい。遊びも含めてだが、なかなか読書の時間がないと感じている。いろいろと工夫はしているがなかなか難しく、学校と公共図書館が連携しながら進んでいるところはありがたい。</p> <p>また、コロナをきっかけに非来館イベントが充実しているということで、北図書館でとても興味深いアンケート等をやっている。ただ、図書館のホームページにアクセスしてみたが、結果がどこにあるかが分からない。もう少し分かりやすくしていただければと思う。</p> <p>中図書館には教職員支援として教育分野や卒業式に向けた本の紹介等をしていただき感謝している。市教員が忙しい中、どの程度見ることができているかは分からないが、アナウンスしていただけるのは非常に嬉しい。</p>
会長	<p>非常によく頑張ってください。効果検証の中に、妥当性、インパクト、効率性、協働の視点とあって、非常にいい区分だと思う。</p> <p>ただ少し、協働の視点の活かし方という点で、学校や企業との連携もいいが、それよりも一番大事なことは住民との連携。それが各館ごとにバラツキを感じた。館によってはあまりきちんと取り組まれていないこともあるのではないかと。多くがボランティアとの連携になっていて、気を付けないと住民を下請け的に使うのを協働と勘違いするような話になりかねない。</p> <p>協働の視点で一番大事なことは、住民自治を確立し、盛んにするという</p>

	<p>こと。そのことによって、団体自治にかかる専門的コストを下げるができる。住民自治がしっかり頑張ってくれていたら、その分役所は人件費も下がってくるし、専門労力にシフトできる。住民の自治力がある自治体はレベルの高い政策に切り替えることができると言われている。図書館こそが、住民自治を活力あるものにするような政策をやっていただきたい。</p> <p>この協議会も住民参加のシステム。各委員が非常に優れた案を出しているのので、それを各館で徹底してほしい。</p>
--	---

報告について	
発言者	内容
会長	まず事務局に説明を求める。
事務局	令和5年度予算について説明 令和4年度堺市議会における質疑応答について説明
事務局	令和5年度予算について補足説明 令和4年度利用者アンケートについて説明 非来館利用登録について説明
会長	何か質問や意見はあるか。
委員	アンケートについて、田原市ではボランティア等の関連団体の方にもアンケートを実施している。モチベーションや図書館への要望等を聞いているが、とても参考になる。ボランティア等へのアンケートをしても良いのではないか。
委員	<p>最近、経済的格差とか家庭環境の格差というのが、すごく広がっていると感じている。格差が広がる中で、公共図書館が、例えば、文化的格差を埋めるような、そういった体験ができるような場所にぜひともしていただきたい。</p> <p>文化的格差にはどういうものがあるのかということのを改めて議論して考えていかなければいけない。例えば、パソコンであったり、Wi-Fiネットワークもそうだが、海外の図書館では3Dプリンターやドローン、あるいは楽器の貸出をしたり、料理教室を開催している。海外では当然とされていることが、なかなか日本ではできないということを感じる。</p> <p>先ほど話をした、誰ひとり取り残さない社会のために、文化的格差を埋</p>

	めるような図書館のサービスができないか、ぜひ考えていただきたい。
会長	<p>文化的格差という点では、堺市は文化基本条例を持っていて、保育所や認定こども園、幼稚園でも格差解消のための事業を開始している。小中学校でも講師を派遣する文化事業を実施している。図書館も、もっと社会の凸凹を直していくという能動性を発揮してほしい。</p> <p>図書館に親子で一緒に来る家庭の子どもは、明らかに学力が高いという調査結果が出ている。同じように、美術館や音楽ホールに一緒に行く家庭の子どもも高いと、明確に出ている。</p> <p>文化に関するアクセスの中で一番自主的で達成感がある場所は図書館。今の森委員会のご発言は大変大事なこと。能動性を発揮した事業を展開していただきたい。</p> <p>また、是住委員が発言していた、地域において図書館の価値があるということをもっと実証していくようなアンケートや調査方法を確立していただきたい。絆が深まったとか連携事業が増えたとか、そのことによって地域の人たちの行動変容を、どのように具体的に促したかということが分かるようなリサーチができないか。アンケートというより、能動的にリサーチするような、エビデンスを積み上げていくような仕事をしていただけたら、図書館の社会的な価値とか地位がもっと高くなるのではないかな。</p>
会長	委員から様々意見を述べた。今後の図書館運営に活かしてもらうよう要望する。
案件終了	
事務局	<p>次回の開催は令和5年6月から7月ごろに、令和4年度堺市立図書館サービス評価および、令和5年度の取組み目標や指標について予定している。</p>
閉会	